



# まなびやまと

No.15

平成21年(2009年)2月  
大和市教育委員会

## レッツ！阿波踊り！

### 深見小学校



を見せるなど工夫しながら、手や足の動き、姿勢、かけ声など、一つ一つ丁寧に説明していました。

指導者の鈴木さんは「動きは簡単ですが、うまく踊るのは大変です。深見小の子どもたちは、とて

### 地域との連携で、

### 子どもたちに豊かな学びを

#### 深見小・大和東小・大和小・上和田小の取り組み

深見小学校では、三、四年生が、運動会の表現で、毎年阿波踊りを取り入れています。踊りの指導は、地域にある阿波踊りの連に所属する方がボランティアで行いました。運動会に向けての初めての練習では、今年初めて踊る三年生にわかりやすいように、正面と横向きで見本

も熱心に取り組んでいて、初めてにしてはうまくいったですね。」と話していました。練習後、四年生の児童は、「去年も踊ったけれど、やっぱり難しいです。特に手の動きはうまくできません。これから、もっと練習します。」と話していました。



運動会まであと四日に迫ったところで、三回目の練習が行われました。子どもたちの手や足の動きはともスムーズで、うまく踊れるようになりました。指導者の細野さんは、「動きが速くならないように、前の人をよく見て踊ってください。」と声をかけていました。

深見小学校が運動会で阿波踊りに取り組むようになったのは、今から十三年前、校長先生が当時四年生の担任だったときからだそうです。取り組み当時から指導を続けてきた細野さんは「阿波踊りなど、



地域に根ざした活動をこれからも子どもたちに教えていきたいです。学校と連携すること、

子どもたちを地域で育てる土台ができると思います。」と語りました。

九月二十日の運動会本番では、地域のボランティアが演奏する笛や太鼓などの鳴り物にぎやかに響く中で、三、四年生が阿波踊りで入場しました。踊りがすっかり板につき、いかにも楽しい様子に印象的でした。深見小学校には、阿波踊りが息づいています。

## 収穫に大喜び！

### 大和東小学校

十月七日に、大和東小学校の五年生が稲刈りをしました。カマを使うのが初めての子どもたちが多かったため、ボランティアとして田植えから稲刈りまで指導にあたった荻窪さんが、最初に稲刈りの実演をしました。その鮮やかな手さばきに、子どもたちから「すごい！」



「はーいー」と驚きの声が上がりました。子どもたちが稲を刈り始めると、

雨蛙、イナゴ、バッタなどがたくさん飛び出してきました。虫に気をつけながら、稲刈りした後、はざかけを手伝いながら、一本の稲、一粒のもみも大事に拾っていました。

校長先生は、荻窪さんへのお礼とともに「実るほど頭を垂れる 稲穂かな」の句を子どもたちに紹介し、大和市内では一校だけしか取り組んでいないという、水田での田植えや稲刈りに、「この体験を大切に、心も豊かに実らせよう。」と呼びかけました。



荻窪さんは、子どもたちのお礼の言葉に「みなさんが刈った米は、玄米にして渡します。これからのようにして食べるのか考えてください。また、田んぼには、いろいろな生き物がいます。大事にしてください。」と語りました。



## 華道体験 大和小学校

十一月十七、十八日に、大和小学校の六年生が、華道体験を行いました。これは、室町文化である「生け花」を体験するもので、歴史学習の一環で、四年前から毎年行われてい

ます。講師は、元保護者で華道家の松川さん、佐藤さん、秋山さんです。



講師の松川さんが、子どもたちに、生け花の発祥から現在に至るまでの歴史を説

明した後、「みなさんは、これから外国へ行く機会もあるでしょう。そのときに、生け花など、日本の伝統文化を外国の人に紹介できるようになってほしいと思います。今日は、興味をもって楽しんでください。」と語りました。

子どもたちは、牛乳パックにきれいな飾りをつけた手作りの花器に、ガーベラ・ユカリ・クジャクソウを生けていきました。



松川さんの説明も待ちきれずに、どんどんやりたがる子どもたちも

ましたが、大半は、慎重に茎の長さを確かめながら、おそ



るおそるはさみを入れていきま

した。どうしたらいいか、なかなか決められないときは、講師が、子どもたち一人ひとりに、枝の丈や挿す位置、空間のあけ方などを教えていねいにアドバイスして

いました。友だちとでき具合を見比べながら、「初めての経験だったし、普段なかなかできないので、とても楽しかったです。」と感想を話して



いました。花を生ける子どもたちのやさしい表情が印象的でした。

## 芝生で遊ぼう 上和田小6年生

十一月十六日に、上和田小学校で「芝生で遊ぼう」が行われました。主催は、上和田小PTAと渋谷東地区体育振興会です。雑草一つないふかふかの芝生の校庭や体育館で、体育

振興会のみなさんの指導のもと、五、六年生のボランティアと一緒に、子どもたちは様々なスポーツを楽しみました。



芝生の整備は、これまで「校庭緑化プロジェクト」という地

域ボランティア、PTA、教職員が中心に行ってきた。今年度からは、六年生も参加しています。総合的な学習の時間に、「私たちの宝物上和田小の芝生」というテーマで学習し、芝生のよさや特性、世話の仕方、種類、原産地の歴史など、自分の課題をもって調べていくうちに、芝生を育てる大変さに気づいて、地域の人と一緒に芝生の世話を始めるようになりまし



た。「芝生で遊ぼう」のボランティアに積極的に参加したのも、この学習に

取り組んだ成果です。今後は、自分たちの卒業後

も「いつまでも芝生を大切にしたい」という願いを込めて、五年生に世話を引き継ぐ予定です。

PTAは綿菓子子どもたちに配り、野菜を作っている地域の人は採れたての野菜を販売して、会を盛り上げるなど、学校・家庭・地域の協力体制の中で行われた催しでした。参加した子どもたちは、地域の人とのふれあいを楽しんでいました。



## しょうじゅの里で交流 上和田小4年生

上和田小学校では、総合的な学習の時間や生活科の授業、学校行事などで、地域にある介護老人保健施設「しょうじゅの里」で、各学年が交流を行っています。

十一月十二日、四年生が、「しょうじゅの里」で和太鼓の演奏を披露しました。

たくさんの方々が集まる中で、子どもたちの元気な「八丈太鼓」「かがやけばやし」が鳴り響きました。



演奏後は、施設利用者と一緒に和太鼓を打つなど、交流を楽しみました。子どもたちを見守る温かな表情が印象的でした。



次に、運動会で踊った、荒馬踊りを披露しました。軽やかに跳ねる子どもたちの様子に、大きな拍手が送られました。



# 「文化のつどい」

## 平和学習・環境学習に取り組んで

南林間中学校

### 歴史に刻め 南中 History 南中 Change the world

十月二十三、二十四日に、南林間中学校で、第二十一回「文化のつどい」が行われました。南林間中学校では、三年間を通じて「人と人とのつながり」を大切にしながら、地域に合わせた平和学習に取り組んでいます。一年生では、地域の資源回収への参加などの体験から「身近な地域とのつながり」を学びます。二年生では、歴史学習を通して「戦争と平和」について考えていきます。三年生では、広島への修学旅行で証言者に話を聞くなどの体験を通して「平和」を追求していきます。この「文化のつどい」でも平和学習の成果が発表されました。

一日目は、合唱コンクールなど舞台発表が行われました。舞台には、三年生が製作した純白の花のパネルが一面に広がり、各クラスの発表を際立たせていました。たくさん



保護者が、各クラスのスバラしい合唱に聴き入っていました。

最後には、全校生徒が「HEIWAの鐘」を合唱しました。昨年、「HEIWAの鐘」の作詞・作曲者である仲里幸広さんを招き、直接、曲への思いを聞いただけあって、美しいハーモニーとともに、平和に対する力強いメッセージが込められた歌声が、体育館に響き渡りました。

続いて、三年生の有志クラスによるダンスや劇の発表がありました。劇は、生徒たちが自ら脚本を書いた「はだしのゲン」



「No more Hiroshima」この悲劇はもう起こさない、

で、いずれも平和への願いを表現していました。

その後、合唱部と吹奏楽部の発表がありました。生徒たちは、温かい拍手で友達の活躍を応援していました。



特に原爆をテーマとし、精巧な模型やオブジェが展示され、クイズなどで興味をも

ちながら学習できるように工夫されていました。一、二年生は、展示を見ながらメモを取ったり感想を書いたりするなど、三年生のすばらしい取り組みを目の当たりにして、これからの学習への期待を感じている様子でした。また、身近な環境を考える学習の成果として、三年生が取り組んできた二酸化炭素の削減についての発表もありました。隣接する南林間小学校の子どもたちも、作品を見学していました。

参観していた保護者は「いろいろな作品や発表で、子どもたちの成長を感じることができて、うれしいですね。」と話していました。

## 地域の方々に見守りながら

### 新校舎落成式と創立五十周年記念式典

光丘中学校



十月十一日に、光丘中学校で、新校舎落成式と創立五十周年を祝う式典が行われました。式典には、生徒・教職員を

はじめとして、来賓・地域の方々、卒業生を合わせて約千人が参加しました。

まず、オープンセレモニーとして、吹奏楽部による華やかなファンファーレを合図に、代表者七人によるテープカットが行われました。その後、場所を体育館に移し、合同式典が始まりました。

大木市長をはじめ、たくさんのお祝いの言葉や歴史ある光丘中学校の思い出が語られました。生徒代表の大西生徒会長は「旧校舎は取り壊されてしまいましたが、たくさん思い出が残っています。校舎に残っていた傷の一つひとつから、今までの光丘生が聞こえてくるようにして。このすばらしい

校舎と、長年、光丘中学校とともに生きてきたヒマラヤ杉と、新しく東門に植えられたあすなるの木とともに、私たちも成長していきたいと思えます。」とお礼の言葉を述べました。最後に、参加者全員が、力強く校歌を歌いました。



合同式典終了後、アトラクションとして元教職員、卒業生、保護者による歌と、吹奏楽部による演奏が披露されました。地域への思いを込めた「ふるさと」の合唱や「いっしょに旅立ち」の演奏など、心にしみる演奏の数々に、たくさんの拍手が送られました。



## 新しい学習指導要領への移行が始まります

平成20年3月に学習指導要領が告示されました。その内容を少しだけご紹介します。(指導室)

平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
現行指導要領	<b>小学校移行措置</b> ★小学校外国語活動について 大和市では、5、6年生で 年間17時間実施	★小学校外国語活動について 大和市では、5、6年生で 年間35時間実施	<b>小学校全面实施</b>	中学校全面实施
	<b>中学校移行措置</b>			

### 改訂の基本的な考え方

- 教育基本法の理念を踏まえ「生きる力」を育成
- 知識・技能の習得と、思考力・判断力・表現力等の育成との、バランスを重視
- 道徳や体育を充実し、豊かな心や健やかな体を育成

具体化

- ◎年間の授業時数を増加  
(小学校低学年で週2時間程度、小3～中3で週1時間)  
★時間割については、各学校で異なります。
- ◎国語だけでなく他教科でも言語活動を重視
- ◎総合的な学習の時間を縮減(週1時間程度)
- ◎小学校5、6年生で「外国語活動」を導入  
★大和市では、来年度から段階的に導入(1～4年生でも、2～5時間、学校裁量で実施します。)
- ★外国語活動研究推進校を設置
- ◎中学校では、数学・理科の授業時数を増加

本校は明治三十一年に開校し、平成二十一年度には、百周年を迎えます。校庭のくすの木、ヒマラヤ杉などに歴史の古さを感じさせられます。また西門の門柱には、大正十二年三月と記されています。

歴史ある学校ですが、校歌を制定したのは、意外にも昭和三十八年二月でした。その校歌の一番の歌詞の一節に「進もうわれら 世界のひと」と、二番の歌詞の一節に「つくろつわれら 文化の町を」があります。四十数年前の作詞ですが、現在の渋谷小学校を象徴しているように感じられます。

まず「進もうわれら 世界のひと」ですが、本校には、約百人の外国につながるのいる児童が在籍しています。

平成十九、二十年度には、校内研究のテーマに「世界の人々とともに生きる」をきっかけ、各学年が授業づくりに取り組んできました。子どもたち一人ひとりが、自分の国と

### 「おらが学校」校歌の一節から

大和市立渋谷小学校

友だちの国との生活の違いや共通点を知り、相互に認め合い、共生できることを目指しています。遊び、民話、音楽、祭り、環境、食などを通して自分の国や友だちの国について学習しています。

日本語を母語としない保護者のために本校の学校だよりは、振り仮名つきです。またPTA委員を決めるお知らせは保護者の母語に翻訳したものをお渡ししています。

次に「つくろつわれら 文化の町を」ですが、現在高座渋谷駅周辺で区画整理事業が進行中で、街が大きく変わろうとしています。

三年前に西側地区の区画整理完了と駅西口のロータリーの完成を祝って「高座渋谷交流フェスティバル(街開き)」が開催されるようになりました。児童が参加して、「みんな

が願う街」ベストファイブを発表しました。四年生以上全員に行ったアンケート調査で、一番多かったのは「事件事故のない安心安全な街」でした。

十八年度には、英会話活動を紹介しました。市内で最初の小学校英会話活動研究校としての一端を発表しました。

また、十九年度には、校歌と渋谷小学校の歴史を紹介しました。紹介の後、来場者に「渋谷小検定」と題するテストをお楽しみいただきました。いろいろな会や式のたびに歌われる校歌ですが、「グローバルに考え、ローカルに行動する。」を私たちに示唆しているようです。



高座渋谷交流フェスティバルの様子

「まなびやまと」は、開かれた教育行政の一環として、保護者、市民、教職員向けに、本市における各学校の教育活動や教育委員会の事業を、具体的にお知らせしようとするものです。気軽に読みいただき、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。